

令和7年度

施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会

認定こども園 日吉台幼稚園

令和7年度 施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台幼稚園

1、本園の教育・保育目標

社会福祉法人博乃会の方針である「知育・体育・徳育」の三本の柱を基に、「頭の良い子に」「心の豊かな子に」「意欲溢れる子に」バランス良く育つよう、教育・保育内容の充実を図り、一人一人の個性を尊重し、集団の中で励まし・褒める教育保育を目指す。

◇何事にも集中して粘り強く取り組む姿勢を養い、成し遂げた喜びと満足感が自信になり、それがさらに積極的に明るい人格に育つように導く。

◇素直で思いやりのある子どもに育て幼児の未知なる可能性と伸び伸びした豊かな心を育む。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

◇安全・安心な環境づくり。

- ・園内外の安全点検・防災訓練の定期的な実施
- ・感染症対策の徹底（手洗い、消毒、換気など）
- ・アレルギー・特別な配慮が必要な子どもへの個別対応の徹底

◇地域・家庭との連携強化。

- ・保護者とのコミュニケーション強化（個別面談、園だより、ICTを活用した情報発信）
- ・地域資源を活用した体験活動の推進（地域行事への参加、地域の方と連携した学び）
- ・家庭での子育て支援（子育て相談、育児講座の開催）

◇子どもの健康・心のケア。

- ・定期的な健康診断・歯科検診の実施
- ・食育活動の推進（園内調理体験、栄養バランスを考えた献立作成）
- ・子どもの心のケア体制の充実（カウンセリングや見守り体制の強化）

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み状況
本園の教育・保育課程の編成・実施に関して、職員間の共通理解を図る。	本園の教育・保育課程の編成・実施において職員間の共通理解を図るためには、定期的な会議や研修、情報の可視化、日常的なコミュニケーションなど、さまざまな取り組みが必要です。これらを継続的に実践することで、職員が一丸となり、より良い教育・保育を提供する基盤が築かれます。
認定こども園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	質の高い教育・保育の推進：研修や指導法の充実を通じて、全職員が最新の知識とスキルを身につける仕組みを整えます。 地域交流・連携の強化：地域行事や異世代交流プログラムを積極的に取り入れ、園が地域に根差した存在となることを目指します。 ICTの活用：職員間の情報共有や保護者とのコミュニケーション

	に ICT を導入し、業務の効率化と透明性の向上を図ります。 多様なニーズへの対応：働く保護者や外国籍家庭など、多様な家庭環境に応じた柔軟な支援体制を構築します。
教育・保育の質の向上のために、園内外研修を充実させる。	研修計画を立て、定期的実施した。 ■心肺蘇生法、エピペン、SIDS研修 ■人権研修 ■キャリアアップ研修 ■栄養士研修 ■感染症への対応方法 ■安全対策への認識の向上 ■和太鼓研修、造形研修、絵画研修、絵本研修 ■事故防止への危機管理について
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	保育内容や行事についての苦情などは見受けられなかった。 送迎については、交通量が多い道路に面しているが、保護者の協力のもと事故無く日々を過ごしている。
職員の指導能力向上を図る。	職員の指導能力向上は、園全体の教育・保育の質を高め、子どもたちの健やかな成長につながる重要な取り組みです。多様な研修や現場での実践を積み重ねながら、職員一人ひとりが自信を持って指導に臨めるよう、組織として継続的にサポートしていきます。
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底する。	一人一人の子どもが、安心感を持って生活出来るよう、丁寧に関わりを持つようにしたことで、自立に向けて、成長に繋がるよう適切な対応を心掛けていくことが出来ている。また、その場にあった声掛けを行い、子どもの意欲を向上させる教育保育の向上に努めることが出来た。 令和7年10月に施工された保育所内の虐待があった場合の通報についても、職員一人一人の言動や行動を全体で確認し、話し合う事が出来ている。
食育に関する実践を充実させる。	3大栄養素の話や郷土料理、給食でも旬の食材を取り入れ、季節感も食を通して伝えることが出来た。家庭に対しても様々なメニューの中で子どもが興味を持ったメニューに関しては、レシピを提供し、自宅でも食に関する取り組みを進めることが出来た。
本園の情報を発信する。	本園の教育方針や取り組み状況を園だよりや掲示、その他のプリントで情報発信している。今年度は実習生の受け入れをしたことにより、養成学校との繋がりを少しずつ増やしていく事が出来ている。地域の委員会にも積極的に参加し、本園の良いところを多くの人に理解してもらえる状況を確立していく。
園舎・園庭などの環境整備	姉妹園である認定こども園日吉台保育園の協力を受けながら、日々の保育の中では問題なく取り組みを行うことが出来ている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保護者から、子どもが毎日楽しそうに登園しており、園での活動を家でも嬉しそうに話してくれます。先生方が一人ひとりをよく見てくださっているのが伝わります。お迎えの際に先生が笑顔でその日の出来事を教えてくれるのが嬉しいです。細やかな気配りに感謝していると聞いている。年上の子に憧れたり、年下の子のお世話をしたりと、異年齢での関わりが子どもの成長に良い影響を与えていると感じる。

5、今後取り組むべき課題

課 題	
保護者への情報提供とより正確な要望把握	保護者との信頼関係は、日々の丁寧な情報共有と、声を受け止める姿勢から築かれます。形式的なやりとりだけでなく、「伝わる工夫」と「聴く姿勢」が大切です。 一人一人の職員がしっかりと受け止める事が出来るように職員全体で様々な要望に応えられる体制を整えていく。
感染症予防対策の向上	登園前の健康チェック:発熱・咳・下痢などの症状がある場合は登園を控えるよう保護者に周知。 入園時・進級時に予防接種歴を確認し、未接種者には接種を促す。 感染経路の遮断、手洗いの徹底:園児・職員ともに活動前後、食事前、トイレ後に必ず手洗い、共有物の消毒:遊具、ドアノブ、手すりなどは定期的にアルコール消毒。抵抗力の強化では、健康診断・歯科検診:年2回実施し、異常があれば保護者に受診を促す。保護者との連携強化、保健だよりの配布:感染症の流行状況や予防方法を定期的に発信、登園届・意見書の活用:感染症罹患後の登園時に医師の意見書や保護者の届出を提出。感染症発生時の迅速な連絡:発症者が出た場合は速やかに保護者へ通知し、対応を共有していく。
自然災害時の危機管理体制の構築	各地で地震による被害が報告されている為、非常時の危機管理について、子どもの安全安心を第一に訓練を毎月実施し、定期的な会議を設け、職員間で確認を行う。 大雨についても危機管理を行い、天気予報やその他の情報を取り入れ、保護者の方々にも周知していくように心掛けていく。
安全管理の向上	安全管理の向上には、施設・職員・保護者の三位一体での取り組みが不可欠です。特に「予防」「教育」「連携」の強化が鍵となります。遊具の点検及び園舎・園庭などに危険な箇所がないか日頃から点検確認の管理に努めていく。(毎日、点検記録をつけて管理していく) また、ヒヤリハットが発生した場合は、職員会議で取り上げ、怪我や事故に繋がらないように未然に防げる対策を検討していく。

6、学校関係者の評価

本園の教育・保育課程は、子どもたちの成長段階や個性を大切にしながら、明確な目標と一貫した方針のもとに運営されており、安心して子どもを預けられる環境が整っています。職員同士のコミュニケーションが活発で、情報共有や協力体制がしっかりしているため、指導力やチームワークの向上につながっている。

また、研修や勉強会が定期的に行われていて、職員一人ひとりが日々専門性を高める努力を行っていることが感じられる。

外部評価や保護者の意見を真摯に受け止め、柔軟に改善や工夫を重ねている姿勢がとても印象的であり、園全体の質の向上が実感できる。

地域の中学校との連携も積極的に行われていて、幅広い視野で教育・保育に取り組んでいることが評価できる。